

新報

島根県教育庁
隠岐教育事務所
隠岐の島町港町塩口24
電話2-9772

『寄り添う』と いうこと

先日、隠岐の島町の特別支援教育支援員の研修会で話を
する機会を得ました。『子供
の学びをみんなで支える』と
題し、支援員として子供に寄
り添い、側で支える上で大切
にしたいことについて、自分
の思いを原稿にまとめまし
た。しかし、原稿を読み返す
と、何かが足りないことに気
が付きました。それは、支援
を受ける側の子供の思いで
す。子供たちは、どんな思い
で支援員さんと出会い、サポ
ートを受けているのか。そし
て、どんな支援を望んでいる
のか。子供の側からの視点な
くして、この原稿は完成しな
いと考えました。そこで、以

前通級指導を通じて出会い、
支援員の支援を受けていた青
年に話を聞くことにしまし
た。急なお願いにも関わらず、
たくさんのお話を綴ってくれ
た青年に感謝の思いでいっぱ
いです。以下はその一部です。
**すぐに答えとなるヒントを
出すのではなく、ポイント、
ポイントでヒントを出し、自
分の力で答えを導き出させて
くれた。**
答えが違っても、「こ
こ違うよ。」とか「ここを見
直してみて。」ではなく、も
う一度丁寧に問題を解かせて
くれて、自分の力で間違いに
気づかせてくれた。
十年以上前のことであるに
も関わらず、その時の支援を
振り返り、価値づけて語って
くれた彼の言葉には、支援を

するということの本質が見え
てきます。
学習が『できる』というこ
とは、子供たちにとって、こ
の上ない喜びです。しかし、
彼の求めていたものは、でき
たという事実ではなく、ゆっ
くりでも、自分でできたとい
う実感だということです。
日本LD学会の会報第百二
十一号に、宮城学院女子大学
の梅田真理先生が「こどもに
『寄り添う』とは」と題し、
次のように述べています。
**子どものためにという思い
が強いと、ともすれば支援の
目標が自分の目標にすり替わ
ってしまうことがある。「こ
うしたい」「こう育ってほし
い」というのは、あくまでも
自分の思いであって、子ども
のニーズとは言えない。(中
略)『寄り添う』ことは、相
手を尊重することが基本であ
ることを、忘れずにいたいと
強く思う。**

私は、支援員研修資料の原
稿にこう添えました。『子供
自身が主体的に活動できるよ
うに支える』
一学期の特別支援教育学校
訪問は、終盤に差し掛かって
います。これまでの学校訪問
は、先生方の思いに寄り添う
ことができていたのだろう
か。自分の思いの押しつけに
なっていないか。反省ばかりが思い浮かび
ます。先生方の思いをしっか
りと聞き、欲していることに
対して応えることができる学
校訪問にしたいという思いを
新たにしました。
(文責 角脇)

解決志向のケース会議

私は、支援員研修資料の原稿にこう添えました。『子供自身が主体的に活動できるように支える』
一学期の特別支援教育学校訪問は、終盤に差し掛かっています。これまでの学校訪問は、先生方の思いに寄り添うことができていたのだろうか。自分の思いの押しつけになっていないか。反省ばかりが思い浮かびます。先生方の思いをしっかと聞き、欲していることに對して応えることができる学校訪問にしたいという思いを新たにしました。
(文責 角脇)

日観察はします。観察してい
ると「水は控えた方が良さそ
うだ」「なんだか元気がない」
「そろそろ植え替えてもきつ
とやっつけていける」という信頼
関係に近いような気持ちで芽
生えてきます。今年はそんな
信頼関係が上手く築けたよう
で順調に成長しています。こ
の順調な成長には、育て方を
調べたり、適した肥料や薬を
与えたりすることが得意な人
も関わっています。私との信
頼関係が上手くいかず枯れそ
うになった植物を生き返らせ
ることもしてくれています。
それぞれの得意分野を活かし
たどちらの関わりも植物にと
っては必要であり、そのおこ
がで植物にとってよい環境を
保っているように思います。
五月の生徒指導主任主事研
修では、浜田教育センター教
育相談スタッフによる「次へ
のヒントが見つかる解決志向
のケース会議」の講義・演習
が行われました。原因を追及
しすぎず、解決像に焦点をあ
てるという「解決志向アプロ
ーチ」の考え方を使い、約三
十分で終わり、必ず次に行う
ことが決定するケース会議は
好評で、複数の学校での実践
につながっています。
学校では、子供にとって最
も良い支援を探るために様々
なケース会議が行われていま
す。支援を考えるために必要
なのが、要因を多面的に的確
に把握し、適切な支援につな
げるというアセスメントの視
点です。多面的に的確に把握
するには、日々子供に関わる
先生方それぞれの得意分野を
活かした多面的な見方が必
要ではないでしょうか。多様
化する子供たちに対応するた
めにも、多様な意見が出され
るこの解決志向のケース会議
をご活用下さい。
(文責 藤野)

